

受験奮闘記～桜修館中等教育学校～立教大学観光学部②

「ボクが学んだこと 都立中高一貫校との出会い」 T. SUZUKI

今回から僕の人生最初の関門である中学入試についてお話しします。この入試は今後の進路や方向性に大きく関わった大イベントでもあります。中学入試を検討している生徒とその保護者の方々にとって有益な情報となるかは定かではありませんが、経験者としてこれから何回かに渡って記していこうと思います。

中学受験のきっかけである開成高校は開成中学との中高一貫校でした。中高一貫校とは、中学と高校が一つになっていて、中学に入ると自動的に高校に進学できるというシステムを持つ学校のことです。中には進級試験を挟むところもありますが、基本的にはエスカレーター式のため、高校入試をする必要が無くお得な学校なのです。楽をしたかったわけではありませんが、せっかくなら6年間同じ学校で過ごして大学入試に備えたいという思いもあり、中学入試の志望は中高一貫校に絞られました。その頃、母から一冊の教育雑誌をもらいました。内容は中高一貫校の特集でした。首都圏の様々な中高一貫校が紹介されている中、運命の文字がそこにはありました。

「都立中高一貫校」、東京都(当時都知事の石原慎太郎さん)が率先してつくった中高一貫校の総称で、当時はまだ歴史が浅く進学校の新鋭として注目されていました。多くの中高一貫校が“私立”である中、これらの学校は“都立”つまり公立でした。公立であることによってどんなメリットが生じるかということ、それはズバリ「学費の安さ」です。公立学校と同じくらいの学費で6年間同じ学び舎に通うことができるのです。言い方は悪いですが、そこら辺の普通の学校の学費でハイレベルな教育を受けられるということです。それゆえに人気が高く、開校したての頃の入試倍率は8とか9とかという数字でした。「倍率は高いが、安い学費で高水準のカリキュラムがある」、これはお世辞にも裕福ではない僕の家にとって最高の場所でした。私立校に深い思い入れは無かったので、颯爽と都立中高一貫校の受験を決意しました。とは言え当時僕は小学5年生、これまでの決断の中で最も大きく重要なものでした。

その秋、両親と様々な都立中高一貫校の文化祭を見物しました。校内の様子や生徒の雰囲気を確認するためです。中でも当時興味を持っていたのは小石川でした。小石川はSSH(Super Science High-school)に指定されている理系学校で、都立中高一貫校の中でもハイレベルクラスの学校です。“当時の”僕は科学教室にも通っていたほどの科学少年で、「中学は理科に強い所へ」なんて考えていました。文京区にある校舎は大きく、教室もきれいで清潔感ある場所だったと記憶しています。科学部のワークショップも面白く、「ここは良いな」と思いました。

一方で、そんな小石川にも負けず劣らず魅力的な学校がありました。それがのちの我が母校・桜修館中等教育学校です。元々は都立大学附属高校という名前で、中学から大学まで目黒区の八雲に集結していました。それが数十年前の多摩地域移転ブームで大学のキャンパスが現在の南大沢に移転、そして残された附属中高も2005年に桜修館という名で引き継がれることとなり、2011年に完全吸収されたという歴史があります。附属中高から引き継いだ校舎は八雲のどかな高級住宅街に囲まれており、山の手の大都会にある小石川とは正反対な立地です。そしてここは「自由と自治」という校風のもと、生徒が主体となって行事や運営を行う「リーダーシップ育成」の学校でした。

キャラクターの異なる両校ですが、受験をするならばどちらか一つに絞らなければなりません。都立中高一貫校の受験日はみな同じ2月3日、一度に複数の学校を受験することはできないのです。小石川か、桜修館か。まるでアメリカの大統領選のような二択問題、これを制したのは言わずもがなですが、桜修館でした。

決断材料はいたってミーハー的なものでした。まず一つは学校まで「たくさんの電車に乗れるから」です。学校の最寄り駅である都立大学駅まで3回の乗り換えが必要で、普通の神経なら敬遠するような環境ですが僕は違いました。僕は小さい頃からの鉄道好きで、電車に乗って出かけるのが大好きな子供でした。そんな子が「毎日電車に乗って通う」と言われたらそれは狂喜乱舞ものです。乗り換えなど苦ではなく、むしろご褒美です。そしてもう一つが「弓道部の存在」でした。桜修館には弓道部があり、毎年のように全国大会に出場している強豪校です。文化祭でもその珍しい弓道部を見学、在校生の凛とした姿を見て「カッコいい!!ここ入りてー!!」とイチコロになったのです。

かくして僕の入試の方針は決まりました。もともと、最終的に桜修館受験を決めたのはもっと後の話ですが、一応の第一希望は桜修館となりました。思えばこの時から僕の理系精神は消え始めていたのでしょうか。次回は都立中高一貫校の入試スタイルと対策について触れながら話を進めていこうと思います。では、また。

(月1回第二日曜)石川塾 日本の歴史を知る朗読会(無料です)☎042-710-5768

第11回:4月14日(日) 石川塾 10:00~11:30

テキスト:江藤淳「閉ざされた言語空間～占領軍の検閲と戦後日本～」(文春文庫¥740)

第一部 アメリカは日本での検閲をいかに準備していたか

